

# 都市木造の実例紹介

## グランプリ受賞者が講演

### チームティンバライズ

NPO法人チームティンバライズ(腰原幹



ティーグランプリの受賞として講演する稲川清士氏(ジェイアール東日本建築設計事務所)

雄理事長)は、6月21日、内田洋行新川本社工ビキタス競創広場で「ティーグランプリ受賞記念セミナー」を開いた。

ティンバライズは11年からティーグランプリという「都市木造の未来・可能性を見せてくれる建築」を選考委員会では選考して表彰しており、先進的な木造

建築の現在進行形を広く知らしめていこうと企画した。

腰原理事長は「ティンバライズ建築展は表参道から始まり、静岡、名古屋、九州、北海道で開催し、都市木造を知ってもらえるように活動してきた。今年の秋にはオリンピックをテーマに木造オリンピックの展示会を計画している」とあいさつした。

記念セミナーでは竹原義二氏(受賞作・梅の里保育園)が、高崎の梅の里保育園の設計

を依頼されたいきさつを説明し、柱は合わせ柱を交互に方向を変えて、壁とは関係なく自由而建て、燃えしろ設計で対応したことや、木材の発注を内示で行って行ったことなど紹介した。

六車誠二氏(同・RC SW)はRC SWの構造について、1階はRCで、その上に5.5層のチャンネルで持ち出し、その上に若杉活用軸組工法という現在の森林資源の生長に見合った構法を開発して木造を載せた。ムク材、自然乾燥、手刻みにこだわり丸太から取れる最大寸法の直角を使っている。

稲川清士氏(同・ウッドスクエア)は、木質ハイブリッド集成材を使ったオフィスビルの設計について説明、通常のS造だとフレームは極力薄く設計するが、木質化したことで重厚なフレームを使った。プロジェクトは施主が木造でオフィスを作りたいという強い要望で実現した。普及には構法の標準化が不可欠だとした。